

第1回 渡島総合振興局及び檜山振興局二級水系既存ダムの洪水調節機能強化に係る協議の場
議事録

日 時 令和2年3月30日（月）送信

場 所 会議資料をメール送信し、後日質疑を受ける書面会議を開催

参加者 別添「参加者名簿」のとおり

- 議 題
- 1 設置の目的等について
 - 2 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針について
 - 3 スケジュールについて

議 事

(1) 議題1 設置の目的等について

ア 資料1、3により確認

(特記事項)

資料1（規約）、資料3（検証対象ダム）について各構成員の了承を得た。

イ 質疑応答 (有)・無

函館市企業局) 国が策定するガイドラインに基づき協議・検討の結果、利用可能な利水容量の確保が困難となった場合は協議を終了するとの考えでよろしいのでしょうか。
事務局) 今後、確認させて顶きたい。

知内土地改良区) 設置については異議ないが、実際の運用について慎重な議論の積重ねが必要と思われます。

(2) 議題2 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針について

ア 資料2により確認

(特記事項) 特になし

イ 質疑応答 (有)・無

函館市企業局) 亀田川水系には、亀田川本流に設置される新中野ダムのほか新中野ダム下流の亀田川支流笹流川に水道専用ダムの笹流ダムが設置され、ダムには一日当り31,300m³の水利権が設定されています。当該ダム貯水池への流入水は、笹流川自流のほか亀田川本流からも一日当り15,800m³補給しているため、新中野ダムからの事前放流等により深刻な水不足が生じた場合には、複数の浄水場に影響を与え、給水制限等市民生活への大きな影響が懸念されます。

また、利用可能な利水容量や時期ごとの貯水位運用を検討するには、水収支計算が

必要と考えます。

機能強化のため、新中野ダムの施設改良を実施した場合、改良工事期間中の水道用水確保が懸念されます。

洪水調節機能を強化するにあたり、一時的とはいえ利水容量を減少させた場合、貯水池低地からの取水となります。低地の水は、水質が劣化しており、浄水処理に様々な影響を与えることから、定期的に貯水池低地からの放流により貯水池低地の水質保全を図るなど、貯水池低地の水質劣化を防止するための施策を検討する必要があると考えます。

事務局) 今後、確認させて顶きたい。

知内土地改良区) 事前放流などにおける、放流後の降雨が無かった場合の対応(補償問題も含めて)や、放流に向けてのハード整備や対応する人員確保(管理における金銭的問題)などが懸念される。

北斗市) 上磯ダム、大野ダムについては、治水ダムではなく、利水ダムであるため洪水調整機能を有していない。また、気象観測予測が当たらなかつた場合の貯水量の復活が非常に困難であると思われる。

(3) 議題3 スケジュールについて

ア 資料4により確認

(特記事項) 特になし

イ 質疑応答 (有・無)

函館市企業局) 洪水調節機能強化については、重要とは考えておりますが、想定される影響を十分に検討する必要があると考えております。

北斗市) 非常にタイトであると思われる。

知内土地改良区) スケジュールがタイト過ぎると思う。実際運用するとなつた場合、利水者の立場として考えれば、事務レベルではなく役員レベルの判断が必要となり、総代会などを経ないと難しいと思われるため、運用まで期間が短すぎ。

(4) その他

ア 参考資料により確認

(特記事項) 特になし

イ 質疑応答 (有・無)

上磯土地改良区) 協議を進めるにあたって、実際の運用では受益者に大きな影響を与える恐れがあることから、検討の資料として早急にダム個別の運用基準案を求めるとともに、慎重に検討を進めることを要望します。

知内土地改良区) 実際問題として、農業用ダムに洪水調整機能を期待するのは色々クリアしなければならない問題が多すぎると思う。実際農業用ダムは台風シーズンにはほぼ貯水されていない場合が多いので、自ずと洪水調整機能を発揮していると思われるし、他の多目的ダムにおける運用等を見直した方が効果が期待できるのでは。いずれにしても、慎重な議論が必要であると思います。

北斗市) 現状では、非常放流ではなく、農業取水による調整が妥当と考える。

函館市企業局) 水道への影響について、水量、水質の両面から慎重な検討が必要と考えております。

以上